

# Asia Indicators

発表日: 2023年7月5日(金)

## オーストラリア・小売売上高は予想外の堅調さ(Asia Weekly(7/1~7/5))

～イースター休暇や年度末セールの影響を勘案する必要がある点には要注意～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/30(日)	(中国)6月製造業 PMI	49.5	49.5	49.5
	6月非製造業 PMI	50.5	--	51.1
7/1(月)	(韓国)6月輸出(前年比)	+5.1%	+6.3%	+11.5%
	6月輸入(前年比)	▲7.5%	▲2.2%	▲2.0%
	(中国)6月財新製造業 PMI	51.8	51.2	51.7
	(インドネシア)6月消費者物価(前年比)	+2.51%	+2.70%	+2.84%
7/2(火)	(韓国)6月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.7%	+2.7%
	(香港)5月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲12.9%	--	▲16.5%
7/3(水)	(オーストラリア)5月小売売上高(前月比・季調済)	+0.6%	+0.2%	+0.1%
7/4(木)	(オーストラリア)5月輸出(前月比・季調済)	+2.8%	--	▲2.2%
	5月輸入(前月比・季調済)	+3.9%	--	▲7.0%
7/5(金)	(フィリピン)6月消費者物価(前年比)	+3.7%	+3.9%	+3.9%
	(シンガポール)5月小売売上高(前年比)	+2.2%	--	▲1.2%
	(台湾)6月消費者物価(前年比)	+2.4%	+2.3%	+2.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

### [オーストラリア]～イースター休暇や年度末のセールが小売売上高を押し上げるも、跛行色は一段と鮮明に～

3日に発表された5月の小売売上高(季調済)は前月比+0.6%となり、前月(同+0.1%)から2ヶ月連続で拡大している。中期的な基調を示す前年同月比の伸びも+1.7%と前月(同+1.2%)から加速しており、底入れの動きが続いていると捉えられる。種類別では、百貨店など的高額消費や外食関連に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、食料品や日用品など幅広い分野で売り上げが拡大しており小売全体を押し上げる動きがみられる。地域別でも第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州のほか、西オーストラリア州で堅調な動きが確認される一方、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州では力強さを欠く動きをみせるなど、跛行色が鮮明になる様子もうかがえる。ただし、当月はイースター(復活祭)休暇の時期が重なったことに加え、年度末セールを前倒しする動きが広がったことも影響している模様であり、足下の動きを以って家計消費の底入れが進んでいると判断するのは些か早計と捉えられる。

4日に発表された5月の輸出額(季節調整値)は前月比+2.8%となり、前月(同▲2.2%)から4ヶ月

月ぶりの拡大に転じるなど頭打ちが続いた流れに底打ち感が出ているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さ欠く状況は変わらない。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けが底入れの動きを強めている一方、ASEANなどアジア新興国向けや日本向け、米国向け、欧州向けは力強さを欠く対照的な動きをみせている。財別でも、鉄鉱石をはじめとする鉱物資源関連のほか、食肉や果物など食料品関連の輸出は底打ちしているものの、原油や天然ガス、石炭など資源エネルギー関連や製造業関連など幅広い分野で力強さを欠く推移が続いている。一方の輸入額は前月比+3.9%となり、前月（同▲7.0%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出と対照的な動きをみせている。財別でも、機械製品関連のほか、原油をはじめとするエネルギー資源関連、化学製品関連、食料品など幅広い分野で輸入が底入れする動きがみられる。結果、貿易収支は+54.41億豪ドルと前月（+51.08億豪ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 AU 小売売上高の推移



図2 AU 貿易動向の推移



### 【韓国】～輸出入双方で頭打ちの動きの一方、生活必需品を中心とする物価上昇圧力後退でインフレは鈍化～

1日に発表された6月の輸出額は前年同月比+5.1%となり、前月（同+11.5%）から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体や自動車関連などで堅調な動きがみられる一方、縫製品や食料品をはじめとする軽工業関連のほか、化学製品関連をはじめとする重化学工業関連の弱さが輸出全体の重石となっている。国・地域別でも、米国向けは引き続き高い伸びが続くなど堅調な推移をみせる一方、最大の輸出相手である中国向けは鈍化するなど中国経済の不透明感が足かせとなっている。一方の輸入額は前年同月比▲7.5%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月（同▲2.0%）からマイナス幅は拡大している。前月比も2ヶ月連続で減少するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出が全体として頭打ちの動きを強めていることを反映して素材や部材など原材料に対する需要に下押し圧力が掛かるとともに、原油をはじめとする国際商品市況が頭打ちしていることも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は+79.99億ドルと前月（+48.55億ドル）から黒字幅が拡大している。

2日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.4%となり、前月（同+2.7%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.23%と前月（同+0.08%）から7ヶ月ぶりの下落に転じており、国際原油価格が頭打ちの動きを強めたことを反映してエネルギー価格が下落しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格に下押し圧力が掛かっていることを受けて食料インフレの動きも一服しており、生活必需品を中心に物価上昇圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアイン

フレ率は前年同月比+2.2%と前月（同+2.2%）から横這いで推移しており、一昨年末を境に頭打ちの動きを強めてきた流れに変化の兆しが出ている。前月比は+0.04%と前月（同+0.23%）からペースは鈍化するも上昇の動きが続いており、国際金融市場における通貨ウォン安による輸入インフレ圧力が強まる一方、エネルギー価格の下落の動きを反映して輸送コストに下押し圧力が掛かることで幅広く財価格に対する上昇圧力が抑えられているものの、サービス物価については上昇傾向が続くなどインフレ圧力がくすぶる状況は変わっていないと捉えられ得る。

図3 KR 貿易動向の推移

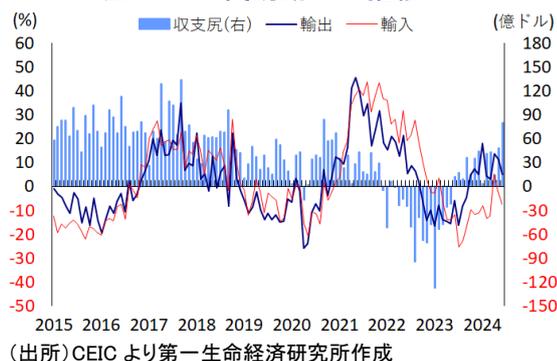
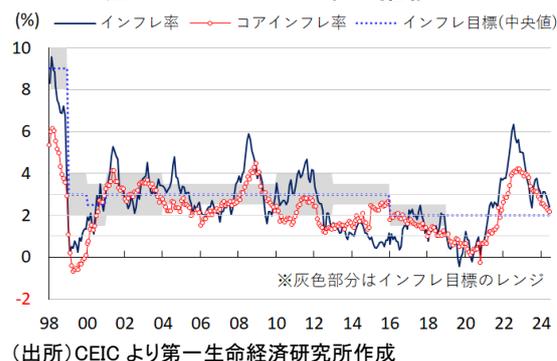


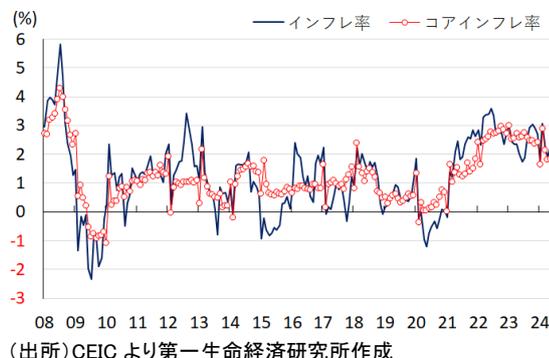
図4 KR インフレ率の推移



### [台湾]～エネルギー価格改定の影響はあるが、幅広く財、サービスの両面でインフレ圧力がくすぶる展開～

5日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.4%となり、前月（同+2.2%）から伸びが加速している。前月比も+0.26%と前月（同+0.14%）から上昇ペースが加速しており、生鮮品を中心に食料品価格の上昇の動きに一服感が出ている一方、このところの国際原油価格の頭打ちにも拘らず電力をはじめとするエネルギー価格の改定を受けて大幅に押し上げられる動きがみられるなど、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、生鮮食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.83%と前月（同+1.83%）から横這いで推移しているものの、前月比は+0.08%とわずかながら前月（同▲0.02%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じている。耐久消費財関連を中心に物価に下押し圧力が掛かる動きがみられる一方、エネルギー価格の上昇や通貨台湾ドル安による輸入インフレ圧力の高まりを反映して非耐久消費財を中心に物価上昇圧力がくすぶるほか、雇用の堅調さを反映してサービス物価にも押し上げ圧力が掛かるなど、インフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

図5 TW インフレ率の推移



## [インドネシア]～食料品価格の下落でインフレ鈍化も、リング安も影響して幅広くインフレ圧力はくすぶる展開～

1日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+2.51%となり、前月（同+2.84%）から伸びが鈍化している。前月比も▲0.08%と前月（同▲0.03%）から2ヶ月連続で下落しており、エネルギー価格はほぼ横這いで推移している一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は下落の動きが続くなど生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.90%と前月（同+1.93%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.10%と前月（同+0.17%）からペースは鈍化するも上昇の動きが続いており、エネルギー価格は落ち着いた推移が続くも輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、国際金融市場における通貨リング安による輸入インフレの動きも重なり幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かるとともに、サービス物価も上昇基調で推移するなどインフレ圧力がくすぶる状況は変わっていない。

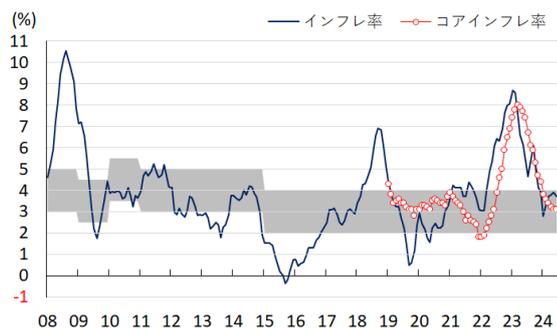
図6 ID インフレ率の推移



## [フィリピン]～エネルギー価格の下落でインフレ鈍化、コメ関税引き下げにより8月利下げの可能性が高まるか～

5日に発表された6月の消費者物価は前年同月比+3.7%となり、前月（同+3.9%）から伸びが鈍化している。前月比も+0.00%と前月（同+0.08%）から上昇ペースは鈍化しており、国際原油価格の頭打ちの動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かる一方、穀物や生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇の動きが続いており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.1%と前月（同+3.1%）から横這いで推移しており、昨年3月をピークに頭打ちの動きを強めてきた流れに変化の兆しが出ている。前月比も+0.24%と前月（同+0.16%）から上昇ペースが加速しており、国際金融市場における通貨ペソ安による輸入インフレが懸念されるものの、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かるなかで幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、サービス物価に幅広く押し上げ圧力が掛かる動きがみられるなどインフレ圧力がくすぶる状況が続いている。なお、今月からはコメを対象とする輸入関税の引き下げ措置（35%→15%）が発効することから、食料品価格に下押し圧力が掛かることで食料インフレ圧力の後退に繋がることが期待される。中銀は先月の定例会合において8月の次回会合における利下げを示唆する動きをみせているが、そうした期待が高まることが見込まれる。

図7 PH インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [シンガポール]～自動車を除いたベースでも小売売上高に底打ち感も、余暇消費は依然力強さを欠く展開～

5日に発表された5月の小売売上高は前年同月比+2.2%となり、前月（同▲1.2%）から2ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+2.41%と前月（同▲2.61%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く展開が続いている。同国においては月ごとの自動車販売が上下に大きく振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲3.24%と前月（同+6.41%）から2ヶ月ぶりの下落に転じており、自動車を除いたベースでは同+3.29%と前月（同▲3.87%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。食料品や衣料品といった日用品のほか、家具や電気製品など耐久消費財、宝飾品など高額品に対する需要が幅広く拡大する動きがみられるものの、娯楽関連に対する需要は力強さを欠く推移が続いており、余暇消費に対する需要は回復していない状況にある。

図8 SG 小売売上高の推移

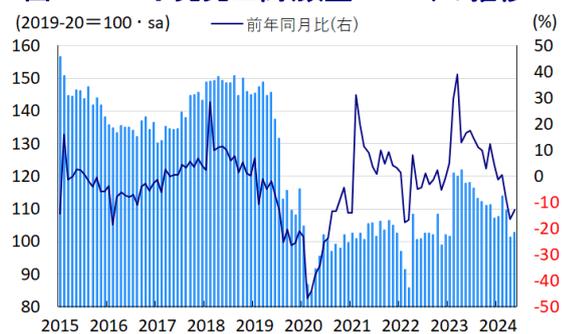


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

### [香港]～生活必需品や日用品の需要に底堅さも、耐久消費財を中心に家計消費は力強さを欠く推移が続く～

2日に発表された5月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比▲12.9%と3ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月（同▲16.5%）からマイナス幅は縮小している。前月比は+1.38%と前月（同▲7.57%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちに転じる動きがみられるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠く推移をみせている。食料品や燃料など生活必需品のほか、衣類をはじめする日用品や医薬品などに対する需要が底打ちする動きをみせる一方、自動車や家具をはじめとする耐久消費財に対する需要は弱含む推移をみせるなど対照的な動きをみせており、雇用を取り巻く不透明感や中国本土景気が勢いを欠く展開が続いていることが需要の足かせとなっている。

図9 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。